

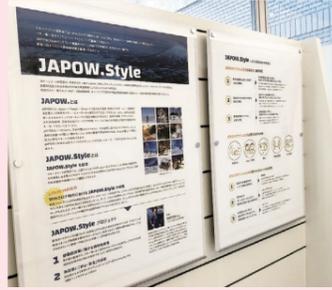
## 企画展示

館内では、当財団の研究活動の紹介や、テーマごとに蔵書を紹介する企画展示を行っています。ご来館いただいた際に、ぜひご覧ください。

## エントランスギャラリー (1F)

## ■ JAPOW.Style (2021年4月～7月)

スキーリゾート研究会では、スキー場における「ニューノーマル」について議論してきました。Withコロナ時代におけるスキー場での新型コロナウイルス感染症対策についてご紹介します。



## 貴重書ギャラリー (1F)

## ■ “紀行文の名手” 田山花袋と明治期の紀行文学 (2021年1月～5月)

『蒲団』『田舎教師』などの作品で知られ、『温泉めぐり』や『山行水行』など優れた紀行文を数多く残した自然主義派の作家・田山花袋を中心に、明治期の文人たちの代表的な紀行文を紹介する本展示は、5月末まで延長しました。  
※6月以降の展示予定はHP等でご案内します。

## 特別展示 (1F)

## ■ 東日本大震災から10年を迎えて

東日本大震災から今年で10年の節目を迎えました。被災地域の復興への歩みを、様々な記録や関連図書、当財団の刊行物・研究資料等からたどります。「災害と観光との関わり」や「復興における観光の力(役割)」について、あらためて考えてみませんか。

※防災専門図書館(東京都千代田区)での東日本大震災関連展示も合わせてご紹介しています。  
※5月以降はB1Fにて継続展示予定



## ■ 地域活性化センター「第8回ふるさとパンフレット大賞」受賞作品を展示

一般財団法人地域活性化センターが毎年選考している「ふるさとパンフレット大賞」も第8回を迎えました。今回も同センターにご協力いただき、全受賞作品を展示しています。

今回のテーマは“わくわくドキドキ!わたしのまちの魅力発信”。例年以上に地域らしさを引き出した個性あふれる作品が集まっています。

ご来館の際には、第1～7回の過去の全受賞作品も合わせてご覧ください。



## ■ 継続展示中!

## (1F)

## ■ 「旅の図書館オススメの一冊」

## ■ 「旅心を誘う、旅の本のレジェンド30選」

## ■ コロナ関連図書展示

新着図書コーナーに、コロナに関連した図書やポスト・コロナの時代の観光をテーマにした図書を集め展示しています。

## (B1F)

## ■ 「公益財団法人日本交通公社がお勧めする研究書&amp;実務書100選」

## ■ 当財団専門委員が選んだ「わたしの一冊」

## Information

## 図書館利用案内パンフレットを刷新しました

当館は2016年の移転・リニューアルから4年半が経過し、この間、蔵書の充実や蔵書分類の改定、デジタルアーカイブ化、書架の魅力づくりなどを進めてきました。それに伴い、このたび当館の利用案内パンフレットを刷新いたしました。当館をご利用の際にぜひご活用ください。



## 旅行雑誌『旅行日本』と『観光朝鮮』の復刻版が揃いました

クレス出版より刊行された『旅行日本』(全3巻)と『観光朝鮮』(全7巻・別冊)の復刻版が当館に揃いました。

『旅行日本』は、創立20周年を迎えたジャパン・ツーリスト・ビューローにより、趣味としても旅行を普及させることを目的に組織した「東京ツーリスト倶楽部」の機関雑誌で、日本国内と朝鮮・満州・台湾などの案内を中心としていました。刊行期間は1932年5月～1934年10月と短命で、終刊の年に東京ツーリスト倶楽部が『旅』を発行していた日本旅行協会と合併することにより、『旅行日本』も『旅』に吸収されていくこととなりました。

『観光朝鮮』は、日本旅行協会朝鮮支部に

より、アジア・太平洋戦争下の1939(昭和14)年～1941(昭和16)年に刊行された観光雑誌で、戦時期の朝鮮の観光情報だけでなく、著名な文筆家や研究者たちが文章を寄せています。

ジャパン・ツーリスト・ビューロー(当財団の前身)とも関わりの深い、昭和戦前期の旅行文化をたどることのできる貴重な資料としてぜひご活用ください。

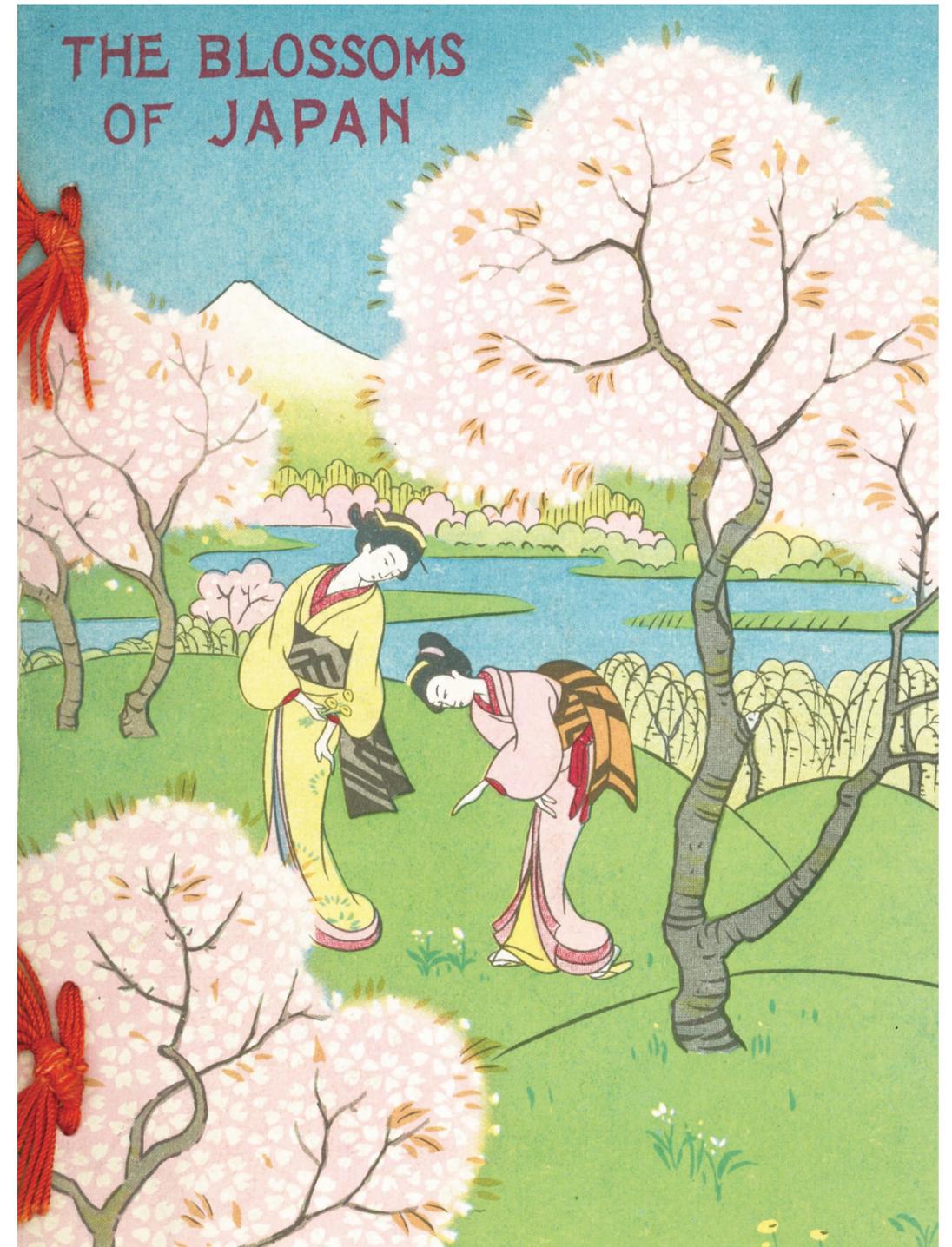


## たびとしょ

— 旅の図書館 News Letter —

Vol. 15

2021年4月号



[The annual cycle of Blossoms in Japan] Japanese government railways,1926

# 「旅の図書館」TOPICS

当館の直近の様子をトピックスとしてお伝えします。

## 国立国会図書館の情報誌『びぶろす-Biblos 89号』に当館の独自分類を紹介

『びぶろす-Biblos』は、行政・司法各部門の支部図書館と専門図書館の連絡情報誌として昭和25年4月の創刊以来70年以上も刊行され続けています。

89号(令和2年12月)の特集テーマは「支部図書館や専門図書館はどのように蔵書を並べているか」。当館も「旅の図書館における独自分類導入への取組について」と題して、リニューアルを機に取り組んだ独自分類と蔵書の管理方法を紹介させていただきました。また明治大学文学部教授・青柳英治氏の寄稿「専門図書館の分類法：書架分類法を対象に」の中でも、独自分類の事例として当館の分類を紹介いただいています。

今後も必要に応じ分類の改定を行いながら、適切な資料管理と利便性の向上に努めていきたいと思っております。

観光研究資料 (T分類) T=Tourism	特徴的コレクション資料 (F分類) F=Foundation	基礎文献 (NDC分類)
T0 観光原論・概論	F0 JTBF関係資料	0 総記
T1 観光者・観光活動 (I)	F1 JTBF関係資料	1 哲学
T2 観光者・観光活動 (II)	F2 統計・白書	2 歴史
T3 観光地・観光資源 (I)	F3 ガイドブック・パンフレット	3 社会科学
T4 観光地・観光資源 (II)	F4 映像・デジタル資料	4 自然科学
T5 観光産業	F5 時刻表・機内誌	5 技術・工学
T6 観光計画・開発	F6 古書・貴重資料	6 産業
T7 観光政策	F7 観光産業関連社史	7 芸術・美術
T8 観光経営・経済	F8 UNWTO資料	8 言語
T9 観光と社会・文化・環境	F9 非公開資料	9 文学

旅の図書館の蔵書分類(2021年12月1日改定)

※「びぶろす」は、平成10年10月からは国立国会図書館ホームページで公開されるようになりました。  
[https://dl.ndl.go.jp/view/download/digidepo\\_11607583\\_po\\_89.pdf?contentNo=1&#page=4](https://dl.ndl.go.jp/view/download/digidepo_11607583_po_89.pdf?contentNo=1&#page=4)  
 ※分類の詳細は、当館HPをご覧ください。  
<https://www.jtb.or.jp/library/collection/>

## 第21～23回「たびとしょCafe」を開催しました

### 第21回(1/14)

テーマ 「地域を観光で支える 株式会社DMC天童温泉の挑戦」  
 ゲストスピーカー 鈴木誠人氏 (株式会社DMC天童温泉 旅行事業課 リーダー)

株式会社DMC天童温泉の事業目的は、“天童温泉に行く目的をつくる”こと。団体ツアーが減少し個人旅行客が伸び悩む中、ライバル関係にある旅館が手を組み、点ではなく面での集客に発想を切り替えて誕生した会社です。

旅行者の過ごし方が多様化する時代、山形の豊富な観光コンテンツを着地型旅行商品として体験可能なかたちにすることで、「山形に行く(来る)理由を創る」こと、そして、新型コロナウイルスの影響が続く中ではありますが、中長期的に腰を据えて「やる、続ける、結果を出す」ことが重要だとお話しいただきました。

### 第22回(3/15)

テーマ 「“非”観光地の観光協会のチャレンジ  
 ～大分県津久見市観光協会の取り組み～」  
 ゲストスピーカー 吉谷地裕 JTBF研究員 (津久見市観光協会 事務局長 ※当時)

大分県津久見市の観光まちづくりの取り組みのなかで、様々な団体の間をつなぎ、旗振り役となっているのが津久見市観光協会です。小規模な組織ならではのフットワークの軽さを最大限に活かして、行政、民間、市民、観光客、メディアといった関係者を結び付けながら、多くのチャレンジを重ねてきました。

「津久見の場合、観光まちづくりに期待する効果としては、地元商店の売り上げアップ、地域のイメージアップ、チャレンジの機運醸成、一次製品の付加価値向上、地場産業の知名度アップが挙げられる」、「多くの関係者を巻き込むためには、“観光振興”がそれぞれの立場でどのような意味を持つのか、翻訳することが必要」だと報告を行いました。

### 第23回(3/26)

テーマ 「中山間地域における交流・観光  
 ～久慈市の“ふるさと体験”～」  
 ゲストスピーカー ニツ神一洋氏 (久慈市産業経済部 林業水産課長)

岩手県久慈市では、旧山形村時代から、豊かな自然や山村・漁村の生業・生活文化をテーマとした体験型教育旅行の受け入れを進めてきました。そこでの“主役”は、地域のとうさん、かあさん、じいちゃん、ばあちゃんです。

「地域外の人が“田舎の普通”に感動することで、住民が田舎のすばらしさを再発見できる。より良い受け入れをしようという意欲が出てくる。ボランティアではなく受入対価を支払うのでお小遣い稼ぎになる。住民同士が集まって考える機会も増える。受け入れが生きがいになる」、「“主役”である地域の人たちを巻き込むために、コーディネーターには『信用』『信頼』『調整力』が必要」とお話しいただきました。※各回の詳しい内容は、当財団機関誌『観光文化』に掲載します。



# 旅の図書館オススメの一冊!

最近刊行された図書の中から当館のおすすめをご紹介します。



1 「復興のエンジン」としての観光  
 「自然災害に強い観光地」とは—  
 室崎益輝 監修・著 橋本俊哉 編著 創成社  
 2021年1月 A5判 192頁

東日本大震災以降、観光及び防災・減災研究の第一人者らによる「災害」と「観光(地)」に正面から向き合い研究してきた成果の結実。“災害に強い観光地”のあり方を考える良書。

2 国立公園と風景の政治学  
 —近代日本の自然風景の権威付けは  
 どのように行われてきたのか—  
 西田正憲・佐山浩・水谷知生・岡野隆宏 著  
 京都大学学術出版会 2021年2月 A5判 468頁

昭和6年に本格始動した国立公園の選定と区域決定。自然の風景をどのように評価し、どのように区切れればよいか?創設期から現在までをたどる国立公園史。

3 紙の上のタイムトラベル 鉄道と時刻表の150年  
 松本典久 著 東京書籍 2021年2月 A5判 176頁  
 間もなく150年を迎えるわが国の鉄道の歴史がこの一冊に凝縮。時代の出来事・トピックスや時刻表、懐かしい写真などが散りばめられ、鉄道ファンでなくても楽しめる。

4 観光・娯楽・スポーツ  
 (郷土史大系・地域の視点からみるテーマ別日本史)  
 竹内誠・白坂蕃・新井博 編 朝倉書店  
 2021年1月 B5判 438頁

日本人の余暇行動を観光・娯楽・スポーツの観点からとらえ、産業・文化としての発展を地域の事例から解説する。

5 地域学をはじめよう(岩波ジュニア新書)  
 山下祐介 著 岩波書店 2020年12月 新書判 240頁  
 どの地域にも固有の歴史や文化があり、人々の営みがある。若者だけでなく、「自分の育った地域なんてたいしたことない」と思っている人にこそ読んでほしい。

6 渋沢栄一と鉄道 「資本主義の父」が  
 鉄道に託した可能性(旅鉄Biz)  
 小川裕夫 著 天夢人 2021年1月 四六判 264頁

日本の鉄道黎明期に貢献した渋沢栄一の実績とその背景を解説。鉄道事業と結びついた旅行の歴史にもふれる。

7 観光のレッスン ツーリズム・リテラシー入門  
 山口誠・須永和博・鈴木涼太郎 著 新曜社  
 2021年2月 B6判 194頁

長い人生の中で学びならう文化的活動である観光の新たな可能性を探求し、その道筋を照らしてくれる「レッスン・ブック」。  
 ※著者のひとりである山口誠氏には、「ツーリズム・リテラシーという考え方」と題して、2018年2月、当館主催の「たびとしょCafe」で話題提供いただきました。

## このローカル誌が面白い!

地域に足を運ばなければなかなか目にすることができないのが地域情報誌(ローカル誌)。厳選収集しているローカル誌の中から、スタッフの“イチオシ”を紹介します。

### 高校生が伝える ふくしま食べる通信 第23号

一般社団法人あすびと福島

2011年3月11日、東北地方太平洋沖地震と東京電力福島第一原子力発電所事故に見舞われた福島は、今なお放射性物質拡散による汚染土壌や汚染水の処分など多くの問題を抱え、農作物も風評被害の影響を強く受けています。この通信は、「大好きな福島が誤解されて悔しい」と感じ、食を通して福島の魅力を地元の高校生たちが伝えようと2015年4月に創刊され、現在まで引き継がれています。

当館では、創刊号からほぼすべての号を揃えています。各号で紹介されている農家さんたち、また高校生たちの想いを感じながら、福島の魅力にふれてみてはいかがでしょうか。

